

消防総務課

小林 すみれ 消防士

平成26年 採用



消防総務課は「庶務・研修・広報」「人事」「経理」の3つの担当に分かれており、消防業務に関わる様々な業務を支える部署です。



私は「研修担当」という分野の仕事をしています。研修担当は千葉県消防学校、消防大学校への入校や、消防局内の研修について企画・運営することを主な業務としています。

採用されてから最初に行われる新規採用者研修や初任科への入校事務等も私が担当しています。

市川市消防局の未来を担う

縁の下の力持ちとして

職員の頼れる存在を目指して——

研修担当は消防職員の能力開発をサポートする業務が主となることから、新規採用職員はもちろん、ベテランの職員の相談役となることも多く、最初はとてもプレッシャーを感じていました。

しかし、尊敬できる先輩方のフォローもあり、「研修」を通して災害現場の最前線で活躍する職員のサポートが出来る事にとってもやりがいを感じています。



皆さんのイメージしている現場の最前線で活躍する消防士ではありませんが、縁の下の力持ちとして現場の職員の頼れる存在となれるように、日々業務に励んでいます。

今後は入校や研修を通じて、現場や事務を問わず活躍できる人材や隊員を育成することが目標です。



企画管理課
車両担当

足立 信一 消防司令

平成8年4月 採用



企画管理課という部署は、消防で所有する建物や消防車に不具合が無いよう管理し、また、不具合があった場合は修理・整備を手配する部署で、施設担当と車両担当に分かれており、私は車両担当の業務をしています。

消防は、人員だけでは災害に対応する事ができず、車両や資機材を使わないと活動する事ができません。

現在、市川市では約110台の車両を保有しており、様々な災害に対応できる体制を整えておりますが、いつ発生するか分からない災害に対応するため、いつも全ての車両を常に正常な機能を発揮できる状態にしておかなければ事ができません。

いついかなる時も車両資機材が正常に機能するように維持管理する部署が私たちです。

車両資機材の スペシャリストとして

車両資機材の維持管理を通じて市民や隊員の安全を守る——



災害の第一線で活躍する隊員が安心して活動できる環境、設備を整える事が市民の安全安心への一役を担っているという使命の元、日々努力しています。

主な業務

- ・消防車両の管理
- ・消防機械器具の管理
- ・安全運転の講習



千葉北西部消防指令センターは、松戸市消防局内に設置され、市川市を含む6市で共同運用されています。

6市の人口は合わせて150万人以上になり、1日200件～300件の119番通報を受付け、消防車、救急車に出動を指令する消防活動の起点となる部署です。



市民の声を聞き逃さない

助けを必要としている方のもとへ

1秒でも早く出動させられるように——

通報の中には、緊迫した状況下で自分の住所も、家族の年齢も言えず、「早く来てくれ」というだけで、何が起きているか分からない場合もあります。そういった通報にも冷静に対処し、状況を聴取する技術や聴取しながら災害状況、規模に適した車両を出動させる迅速な判断力、緊張感の持続を必要とする、とてもやりがいのある業務です。



「119番消防です。火事ですか、救急ですか。」
すべての災害受付はこの言葉から始まります。

朝倉 和紀 消防司令

平成6年4月 採用

指令課
千葉北西部消防指令センター

予防課

富田 基樹 消防司令補

平成19年度採用



予防課は、火災に対する「転ばぬ先の杖」。
建物の安全性や消防用設備等の審査・検査を行
い、火災発生に伴う原因を究明し、出火防止に
努めるほか、火災予防の広報活動を通じ、市民の
防火思想の啓発のための防火イベントや各種講
習会などを開催しています。

何気ない日常のために

～ 火災の発生を未然に防ぎ

安心で安全な街づくりの担い手として ～



災害現場において、切迫した危機か
ら市民を守っている「警防隊」「救助隊」
「救急隊」に比べ、「予防課」は長期的な
視点で市民を守っていく重責を担ってい
るといえます。

予防業務の根拠となるものはすべ
て消防法に明記され、この法律を基
に業務を遂行しなければなりません。
法律の習熟はもちろんのこと、あわ
せて接遇能力の向上を図りながら
日々勤務しています。市民の安全に
寄与していることは、大変やりがい
のあるものです。引き続き、市民の
「杖」となるため、火災予防に取り組
んで参ります。



警防課

駒形 明 消防司令

平成14年度 採用



警防課は「市民防災」「計画」「消防・救助」と大きく分けて3つの担当に分かれます。

「市民防災」担当は消防団・婦人消防クラブ等の地域防災力の向上を目的に、「計画」担当では緊急消防援助隊や各訓練関係、「消防・救助」担当は開発行為や消防水利、消防隊、救助隊に関する事を担当し、消防力の向上に取り組んでいます。

市川市の消防力・防災力向上

「現場の隊員が活動しやすい」環境が
市民の安心・安全の向上につながる——

私の担当は、個人装備の充実や災害訓練への参加等、現場の隊員のサポートを主に行っています。

災害現場で活動する隊員とは違い、助けを求めている市民の方を直接救助することは出来ませんが、私たちのサポートで現場の隊員が安全に活動でき、市民の方のお役に立てた時はとてもやりがいを感じます。



また、警防課は消防団や婦人消防クラブの方々が活動しやすい環境を整えることで、市川市の地域防災力の向上にも携わっています。

市民の方々が安心して暮らせる街市川を目指して、今後も業務に取り組んでいきたいと思っています。

救急課

小川 千亜希 消防士

平成25年 採用



救急課は「高度化推進担当」「普及啓発担当」にわかれており、救急業務の高度化の推進や、心肺蘇生法などの普及に携わっています。

平成3年に救急救命士法が制定され、救急救命士の資格を持った救急隊員が医師の指示の下に、救急救命処置を行えるようになりました。

平成26年には従来救急救命士が行っていた心肺停止傷病者に対する薬剤投与、気管挿管の処置に加え、心肺が停止する前の傷病者にも静脈路確保(点滴)や血糖測定、ブドウ糖投与を行えるようになりました。

私の所属する「高度化推進担当」では、このように日々高度化していく救急業務を円滑に行えるように、救急隊員の養成や教育に携わり、医療機関との連携強化、救命処置の分析などを行っています。

私自身、救急隊として活動した経験を生かして、現場の方の目線に立って業務を進めています。現場活動とはまた違う、命を扱っているという重責に市川市の救急を担う重要な任務だと自負しています。

救える命を救うために

いざという時、躊躇せず、救命処置を行う勇気を持てるよう、特に小さい子どものうちからAEDなどの取り扱いに慣れておくことが重要だと感じています。

救える命を救うために、一人でも多くの方に心肺蘇生法を知っていただき、救命率の向上に努めたいと思っています。



消防音楽隊

平成29年で65周年を迎えた市川市消防音楽隊は、現在職員28名で構成されています。

音楽が奏でる火災予防の効果

～市民の安心と笑顔を守るために～



市川市消防音楽隊とは、昭和27年に発足し「火災予防は幼児から」をコンセプトに市川市の幼稚園や保育園で子ども達の大好きな曲を演奏しながら、火の怖さや危険性等を伝えています。

その他にも消防行事や市民団体、公共団体等が開催する催物に出演し、演奏活動を通じて広く市民の方々と接し、防火思想の理解を深めてもらうために消防の広報活動を行っています。

佐久間 伸城 消防司令補

平成22年 採用

私は楽器は**未経験**であったため、入ったばかりの頃は演奏どころか音を出せるのか不安に感じていました。しかし、音楽隊に入隊し諸先輩方の指導を受ける中で、まだまだ未熟ですがソロパートを吹くまでに**成長**することが出来ました。



楽器

- ・フルート
- ・トランペット
- ・サクソ
- ・トロンバーン
- ・ホルン
- ・ユーホニウム
- ・チューバ
- ・パーカッション etc...

火災予防の広報を続けてきた結果、今まで年間100件を超えていた火災を平成28年から2年連続で100件を下回るまでになりました。もちろん音楽隊の広報によるものだけではありませんが、火災予防広報が形となって表れたことを心から嬉しく思っています。

これからも音楽を通して皆様を笑顔にするこの仕事に誇りを持ち、火災予防を推進していくのが私たちの使命です。

消防の仕事は困っている人、助けを求めている人を救う、人の命を守る仕事です。私は現在、救急隊として活動しているため、悲惨な現場や辛い現場を何度も経験しました。

そんな中で、音楽隊の活動を通して子ども達や市民の方々を**笑顔**にすることができた時、消防の仕事は命だけでなく、安心や笑顔も守れる仕事だと実感しました。



指導機関員



指導機関員 発足！

市川市消防局では平成28年に他市消防本部にはない職員の安全教育、事故防止を徹底する事が任務である**指導機関員**制度を制定しました。

指導機関員は企画管理課と連携して職員に安全運転の教育を行い、事故防止の徹底を図るために、機関員講習の講師を務めること、後身の指導、育成及び技術伝承に関することを行っています。



指導機関員は、長年にわたり安全に車両を運行するとともに、優れた知識と技術を有し、他の規範であると認められた者が任命されます。平成28年に**20名**が任命され、腕章が交付されました。



右腕に付けた腕章を誇りに消防車を運転する全ての人を指導、育成し技術の伝承をする。

北消防署 警防隊 鈴木 邦雄 消防司令

昭和56年 採用
昭和61年 特別救助隊 拝命
平成 3年 機関員 任命
平成14年 警防隊 拝命
平成28年 指導機関員 任命



私は特別救助隊として永きに渡り救助工作車やはしご車の運転業務を担当してきました。

数々の災害現場を経験し、ハンドルを握るものは安全かつ迅速に災害現場まで隊員を連れて行き、何事もなく署まで帰ることが使命だという気持ち強く持つようになりました。



どんなに優れた救助技術や、救命処置が出来ても現場まで安全に辿り着かなければ意味がありません。

そのため常に緊張感と責任感を持って運転業務にあたっています。

市川市消防局指導機関員として消防車のハンドルを握るすべての職員の育成・技術の伝承が使命

現在は北消防署で災害出動及び新任機関員の育成にあたっています。

近年は若者の車離れがよく話題になっていますが、消防の活動に車両の運用は切っても切り離せません。

そのため、普段あまり車を運転しない職員も確かな技術と知識を持って、安全に消防車両を運行出来るよう、指導方法を工夫したり、たくさん車両に触れてもらうようにしています。



新任の機関員の育成

愛ある手
を胸に



IRT
国際消防援助隊

International



世界の災害に
立ち向かう



人命救助の
スペシャリスト

国際消防救助隊 (IRT-JF)とは、海外において大規模な災害が発生した際、被災国からの要請により救助活動を行う部隊です。一定の基準を満たした**77**の登録消防本部に所属し、その中の特別救助隊等から選抜された人員で構成されたチームです。



市川市も全国**77**の登録消防本部の内の1つです。現在、**6名**の隊員が登録されており、過去には海外へ派遣され救助活動を行った実績もあります。



<過去の派遣実績>

- ・平成11年 トルコにおける地震災害
市川市消防局から2名派遣
- ・平成20年 中国四川省における地震災害
市川市消防局から2名派遣



「愛ある手」とはIRT-JFの日本語愛称で、国際消防救助隊のワッペン（胸章）のシンボルマークにも表示され、「消防救助隊が地球の果てまで出かけていき、愛の手をさしのべる」という想いがあります。

私はこの「愛ある手」に誇りを持ち日本の代表として活躍できることに大きなやりがいと強い使命感を感じています。災害が起きた際、皆様と世界で共に活躍できる日を心待ちにしております。



東消防署 高度救助隊

金子 真也 消防司令補

平成19年 4月 採用
平成20年10月 特別救助隊 拝命
平成26年 4月 高度救助隊 拝命
平成28年 1月 国際消防救助隊員 登録

IAA *Ichikawa Ambulance Association*

IAAとは平成9年に、救急隊員が中心となって作った市川独自の組織です。

日々高度化を続ける医療に対応すべく、会員自ら企画した勉強会やシミュレーションを外部の医療従事者または職員に講師を依頼し、実施しています。



救急救命士の処置拡大や、多様化する救急事案に対応するため、心疾患、脳疾患はもとより、アナフィラキシー、外傷、多数傷病者等多岐にわたる勉強会開催のニーズが高まっています。

近年PA (ponpu&ambulance) 連携出動の増加により支援隊に求められる知識も高度化しています。

そのため、救急隊員だけでなく、警防隊、救助隊の会員も多数参加しており、PA連携の勉強会やシミュレーション訓練等も行っています。



クラッシュ症候群の想定訓練では救助隊員も多数参加し、救急の知識以外にも隊の連携強化の重要性を学びました。



IAA会長 鈴木 栄治 消防司令

平成 2年 4月 採用
平成 9年 4月 特別救助隊 拝命
平成16年 3月 救急標準科 卒業
平成24年 4月 救急隊 拝命
平成28年 9月 救急救命士 取得

市川市では平成3年に高規格救急車を配備し、平成4年から救急救命士の養成を図り救命率の向上に努めています。

現在では救急隊12隊すべてに**救急救命士**及び**高規格救急車**を配置しています。救急隊員は104名で、この中には救急救命士53名、女性救急隊員10名が含まれています。



救急要請の増加や、救急隊へのニーズの高まりなど、近年の救急業務はよりハードになってきています。

そのため、市川市では人命救助という同じ目的のために、年齢や階級に関係なく協力し合える体制作りを目指しています。

IAAでは知識を学ぶだけでなく、隊員同士の交流の場となれればと思っております。

助けを求める人の身になり、常に思いやりの心をもつ

今後も市川市の救命率向上のため、より質の高い救急医療を提供出来るようにIAAの活動を広めていきたいと思っています。

また、熱い志を持った皆さんの成長をお手伝いできるよう、今後も様々な取り組みや勉強会を行っていきます。

プレホスピタルケア向上のため一緒に勉強しましょう。

